

October 5, 2021

【前日の為替概況】NY株下落でドル弱含み、対円 110.82 円、対ユーロ 1.1640 ドル

4日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3日続落。終値は110.93円と前営業日NY終値(111.05円)と比べて12銭程度のドル安水準だった。欧州時間に一時111.30円と日通し高値を付けたものの、NY市場に入ると一転下落した。原油先物相場の上昇を背景に、対産油国通貨中心にドル売りが強まると円に対してもドル売りが先行。米国株相場の下落に伴うリスク回避の円買いも入り、110.82円と日通し安値を更新した。

なお、ダウ平均は一時500ドル超下げたほか、ナスダック総合は2.6%超急落した。ナイト・セッションの日経平均先物は大証終値比590円安の2万7640円まで下落する場面があった。米議会での債務上限問題や大型経済対策法案の協議難航などが投資家心理を圧迫したほか、中国恒大集団の巨額の債務問題やエネルギー価格急騰によるインフレ懸念、サプライチェーン(供給網)混乱に対する警戒感が株価を押し下げた。

バイデン米大統領は、「債務上限はインフラ法案とは関係がない」「共和党が民主党と協力して債務上限引き上げに賛成票を投じない限り、米国が債務不履行(デフォルト)に陥らないと保証することはできない」などと述べた。

ユーロドルは続伸。終値は1.1621ドルと前営業日NY終値(1.1596ドル)と比べて0.0025ドル程度のユーロ高水準だった。対産油国通貨中心にドル売りが進んだ流れに沿って、1.1640ドルと日通し高値を付けたものの、ユーロクロスが失速するとユーロドルにも売りが出て1.1615ドル付近まで伸び悩んだ。

NY午後に入ると、1.16ドル台前半で次第に値動きが鈍った。市場では8日の9月米雇用統計に注目が集まっており、様子見ムードも広がった。

米ドルカナダドルは一時1.2558カナダドルまで下落した。OPECプラス閣僚級会合で、協調減産を11月も日量40万バレル縮小することで合意したと伝わると、一段の減産縮小に対する警戒感が後退。WTI原油先物価格が約7年ぶりの高値を更新し、産油国通貨とされるカナダドルに買いが集まった。

ユーロ円は4営業日ぶりに小反発。終値は128.92円と前営業日NY終値(128.79円)と比べて13銭程度のユーロ高水準。20時過ぎに一時129.38円と日通し高値を付けたものの、米国株が軟調に推移するとリスク・オフの円買い・ユーロ売りが入り、128.81円付近まで伸び悩んだ。

【本日の東京為替見通し】豪準備銀行の金融政策や中国恒大関連のヘッドラインに要警戒か

本日の東京外国為替市場のドル円は、ダウ平均の下落はリスク回避の円買い要因だが、米10年債利回りが1.48%台まで上昇していることで、下値は限定的だと思われる。

ドル円のオーダー状況は、111.00円の8日のNYカットオプションを軸にして、上値には、111.20円にドル売りオーダー、111.30円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、111.40-70円には断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、110.80円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売り、110.40-70円には断続的にドル買いオーダーが控えている。

ドル円の上値を抑える売り材料は、連邦債務上限を巡る不透明感、中国恒大集団のデフォルト(債務不履行)懸念があり、買い材料は、11月の米連邦公開市場委員会(FOMC)でのテーパリング(資産購入の段階的縮小)開始観測がある。

豪準備銀行(RBA)理事会では、9月のRBA理事会で、週50億豪ドルから40億豪ドルへテーパリングされた資産買入の期限が、11年半ばから2022年2年半ばまで延長された後なので、金融政策の変更は予想されていない。リスクシナリオは、内憂として、オーストラリアでの新型コロナウイルスの感染拡大が収まらないこと、外患として、中国経済が電力不足や不動産バブル崩壊懸念により減速しつつあることで、豪準備銀行が緩和的なスタンスを打ち出す可能性となる。9月のRBA理事会議事要旨では、11年半ばまでの週50億豪ドルの買入継続、すなわち、テーパリング見送りが検討されたことが言及されていた。

中国恒大集団に関しては、9月末に期限が到来したドル建て社債の利払いが履行されなかったことで、30日間の猶予期間に入っている。昨日10月4日は、中国恒大集団が保証していたドル建て債の償還期限だったが、償還されたとの報道はなく、猶予期間もないことから、クロスデフォルトへの警戒感が高まりつつある。中国恒大集団のドル建て社債の利払いは、来週12日から予定されており、年内で6億ドル規模が控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 9月東京都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合、予想：前年比0.2%）
- 未定 ◎ 黒田東彦日銀総裁、あいさつ（TCFD サミット 2021）

<海外>

- 09:30 ◇ 8月豪貿易収支（予想：101.00億豪ドルの黒字）
- 12:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：0.10%で据え置き）
- 15:45 ◇ 8月仏鉱工業生産指数（予想：前月比0.4%）
- 16:50 ◎ 9月仏サービス部門購買担当者景気指数（PMI）改定値（予想：56.0）
- 16:55 ◎ 9月独サービス部門 PMI 改定値（予想：56.0）
- 17:00 ◎ 9月ユーロ圏サービス部門 PMI 改定値（予想：56.3）
- 17:30 ◎ 9月英サービス部門 PMI 改定値（予想：54.6）
- 18:00 ◎ 8月ユーロ圏卸売物価指数（PPI、予想：前月比1.3%/前年比13.5%）
- 19:00 ◎ ホルツマン・オーストリア中銀総裁、講演
- 21:30 ◇ 8月カナダ貿易収支（予想：4.3億カナダドルの黒字）
- 21:30 ◎ 8月米貿易収支（予想：705億ドルの赤字）
- 22:45 ◎ 9月米サービス部門 PMI 改定値（予想：54.4）
- 22:45 ◎ 9月米総合 PMI 改定値
- 23:00 ☆ 9月米サプライマネジメント協会（ISM）非製造業指数（予想：60.0）
- 24:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 6日 02:15 ◎ クオールズ米連邦準備理事会（FRB）副議長、討議に参加
- 中国（国慶節）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

4 日 10:38 麻生財務相

「マーケットの信頼があるから、今金利も安定している」

4 日 12:23 アーダーン NZ 首相

「オークランドのロックダウン延長、規制の一部は緩和」

「オークランドの学校は 18 日に再開する予定」

「ロックダウン解除の日程は決めていない」

4 日 15:08 フロスト英・欧州連合 (EU) 担当交渉官

「北アイルランド議定書に置き換わる提案を作成」

「北アイルランド議定書について、永遠に待つことはできない」

「北アイルランド議定書は機能しておらず、変更が必要」

「協定は我々が懸念していたよりも早く崩壊し始めているが、問題はまだ解決できる」

「EU に新たな提案をするつもりだが、必要な回答が得られるか不透明」

「合意された解決策がなければ、議定書第 16 条を使って行動する必要がある」

4 日 15:14 スナク英財務相

「労働市場は信じられないほど強い」

「国民が仕事を見つけることをサポートするあらゆるものを投入する」

「高賃金経済への移行が目標」

「サプライチェーン問題を修正しようと業界と協力」

「インフレ高は賃金に浸透していない」

4 日 16:47 デギンドス欧州中央銀行 (ECB) 副総裁

「第 3 四半期の経済は堅調であることが見込まれる」

「最新の見通しでは成長が減速することを示唆している」

「デルタ株は予想した影響を与えなかった」

「必要であれば、12 月理事会で PEPP の代替案を決定する」

「金融政策は引き続き緩和的であるが、目標は物価安定」

「経済活動が正常化すれば、PEPP はその使命を果たしたことになる」

4 日 17:03 石油輸出国機構 (OPEC) 筋

「OPEC プラスは減産縮小戦略を維持すると予想」

4 日 21:18 岸田首相

「目指すのは新しい資本主義の実現」

「新しい資本主義、実現の車の両輪は成長戦略と分配戦略」

「拉致問題は最重要、条件付けずに北朝鮮の金委員長と会う」

「14 日に衆院解散、19 日公示、31 日に総選挙行う」

「思い切ったコロナ・経済対策のため国民の信任得たい」

4 日 23:19 ブラード米セントルイス連銀総裁

「2022 年のコアインフレを 2.8%と予測」

「インフレの上サイドのリスクを懸念」

4 日 23:30 タイ米通商代表部 (USTR) 代表

「トランプ政権の対中政策が間違えだとは決めつけないが、我々が必要としている方向には進んでいない」

「中国とのフェーズ 1 会談では、中国の国家中心主義と非市場取引の慣行についての懸念を話す」

5 日 00:58 バイデン米大統領

「債務上限はインフラ法案とは関係がない」

「義務を果たすためには債務上限を上げる必要がある」

「債務上限の引き上げは過去の債務への返済であり、新たな支出のためではない」

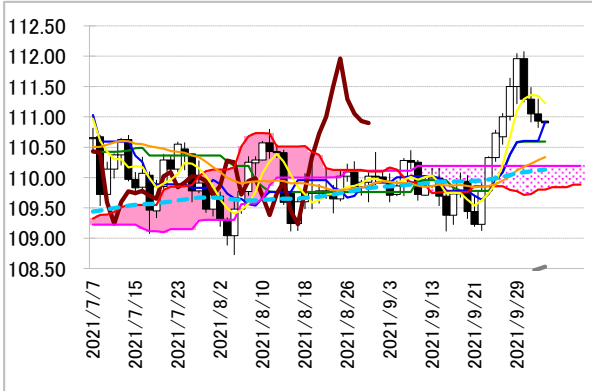
「トランプ政権での向こう見ずな政策で、債務上限を引き上げる必要がある」

「債務上限が準備通貨としてのドルへの脅威となる」

「米国の債務が上限に達しないことを保証できない。マコネル米上院院内総務 (共和党) 次第」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

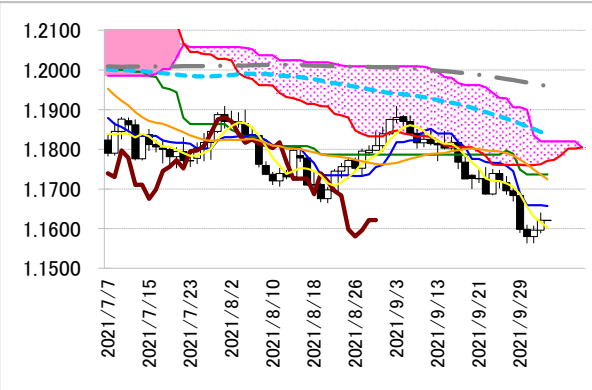


<ドル円=9/30 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯した。しかし、高値圏での抱き線、3 手連続陰線で下落していることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、9月30日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	112.40(2019/4/24 高値)
レジスタンス 1	112.08(9/30 高値)
前日終値	110.93
サポート 1	110.60(日足一目均衡表・基準線)
サポート 2	110.19(日足一目均衡表・雲の上限)

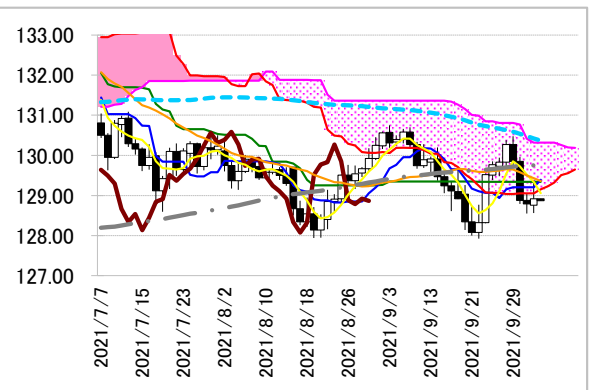


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。5 手連続陰線で下落した後、2 手連続陽線で反発したものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1657(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1621
サポート 1	1.1563(10/1 安値)

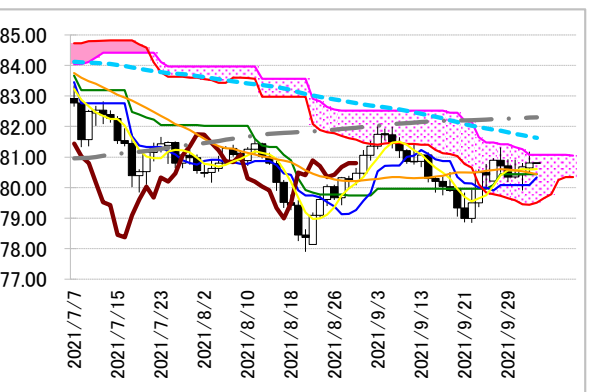


<ユーロ円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、売りシグナルが優勢な展開となっている。3 手連続陰線で下落後、抱き線で反発したものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	129.40(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	128.92
サポート 1	128.55(10/1 安値)



<豪ドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の中で引けており、転換線を上回って引けていることから、買いシグナルが優勢な展開となっている。3 手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けていることから続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	81.08(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	80.81
サポート 1	80.34(日足一目均衡表・転換線)

